

10. 小諸宿の町並み・建物・物語りを活かした商都再生の試み

小諸・町並み研究会
(長野県小諸市)

I. 活動の背景と目的

小諸市は、北国街道小諸宿と城下町の歴史を有する人口約4万人の高原の町です。

明治期には、近郷の物流基地として栄え、「小諸商人」の名を県下に知らしめ、立派な商家の町並みを形成してきました。しかし近年、その繁栄の中心であった立派な商家の並ぶ旧街道沿いは衰退し、商業の中心は駅前通りに移行しました。その駅前商店街も現在は落ち込みが激しく、中心市街地の商業は危機的状況となってきています。

また小諸には、島崎藤村、高浜虚子を始めとする多くの芸術家が住まい、「千曲川旅情の詩」などの作品を残しています。

このような歴史性と詩情に富む風景や町並みを育て、活かすことを通して小諸の中心市街地の再生の道を探ろうと、平成10年に「小諸町並み研究会」が発足しました。

同じ年に、行政による「歴史的街路整備事業」「町並み環境整備事業」もスタートしましたが、行政の事業は基本的にはハードの整備を目的とするもので、町並みを育てるとか活用するという取り組みは含まれていませんでした。そこで、私たちの会では「町並み発見、学習」や「住民参加による施設計画」などのソフト部分に取り組み、行政とのパートナーシップでまちづくりを効果的に進めることを目指して活動してきました。

また、小諸市は町並みだけでなく詩情ある景観が自慢のまちです。しかし景観形成については具体的には何もしていないというのが現状です。当会では、町並みだけでなく総合的な景観形成の方策、市民参加、景観を活かしたまちづくりを考えることを目標として活動を進めています。

そして、今後はそのような町並み景観を、活性化にどうつなげるかのプランを示す必要を感じています。それを今後、小諸でも取り組んでいかなくてはいけない、タウンマネジメント計画につなげたいという思いがあります。

II. 活動の内容

本年度建物にかかわる事業は、町並み研究会の単独の活動ではなく、「本町区まちづくり推進協議会」への協力という形で進めました。

主体はその地区の住人、当会はその支援グループという形で活動ができました。



保存運動で残った旧笠原邸
まちづくりの拠点施設として活用

「本当の建物の魅力と特徴を考える会」
歩く会&ワークショップ (00.6.4)



みんなで建物をウォッチング

●建物調査～「まちづくりの知恵」の作成

本年度は、本町区にまとをしぼって建物の実測調査、屋根伏せ図の作成などを行ないました。これには千葉大学工学部福川研究室が合宿体制で臨みました。

本町区在住の研究会メンバーにより、すべての建物の建築年代および歴史的な変遷も調べ、表にまとめることができました。

また、たくさんの人と本町を歩いて、どんな建物が大事ななどをワークショップでまとめるイベント「本町の建物の魅力と特徴を考える会」を行ないました。

それらの成果をもとに、福川先生を中心に本町の伝統的な建物の良さをいかし、町並みの調和を受け継ぐような建物づくりのヒントをまとめた「20の知恵」をまとめました。



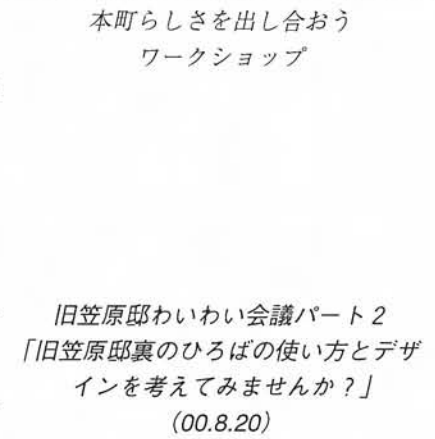
本町らしさを出し合おう
ワークショップ

●町ものがたり調査～本町まちづくり読本の編集

千葉大学の調査に加えて、地元では本町のまちの歴史を調べたり、建物の話しなどの聞き取り調査を行ないました。

それらの調査をまとめて「本町まちづくり読本」として、現在編集集中です。

また、展示用パネルにして掲示しました。



旧笠原邸わいわい会議パート2
「旧笠原邸裏のひろばの使い方とデザインを考えてみませんか？」
(00.8.20)

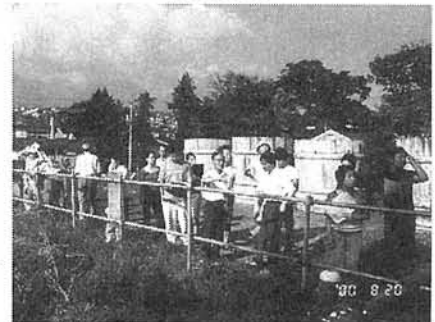
●旧笠原邸活用ワークショップ

これも本町区まちづくり推進協議会への協力という形で行なった活動です。

当会では、3年前に本町にある旧笠原邸（市が壊して駐車場にしようとしていた）の保存運動を行ないました。その努力もあって、この建物はまちづくりの拠点施設として活用されることになりました。その後、当会が本町区としての活用案づくりに協力し、昨年は母屋の設計ワークショップ、今年は裏の蔵、広場の設計についての住民案づくりを手伝いました。

具体的には、活用アイデアを出しあう「わいわいワークショップ」の開催、工芸家など多様な利用者のニーズを掘り起こしての蔵工房設計ワークショップなどの企画進行～まとめを手伝いました。

現在、その案を受けて工事が進んでおり、5月にはオープン予定です。今後は実際の活用について協力していくつもりです。



笠原邸裏のデザインを現場で考える



グループに毎にアイデアを出し合う

今年の本町区での活動が中心となりましたが、その他にもさまざまな活動を行ないました。

- ・11月3日町並み探険隊／これは文化の日の恒例行事となりました。
- ・古民家の移築への支援／郊外の古い立派な民家を取り壊すということで、メンバーが引き取り手を探し、実測調査、解体の手配などをお手伝いしました。

Ⅲ. 活動の効果および今後の課題

活動も3年目をむかえ、人の輪が広がり、地域に根づきつつあることを実感しています。

本年度は、行政により町並み整備事業と合わせて、本町区の建物調査や施設計画を行ないました。行政だけでは手の届かない部分をフォローしたり、もっと言えば行政に対してもの申す住民活動を育てているという側面もあります。けれどもそれにより、「行政まかせではだめだ、市民自身が動かないと」という人の輪は確実に広がり、本町区ばかりでなくまわりの地区へもその気運は広がっています。わたしたちはこの気運を応援し、地区の横の連携づくりを進める体制をつくならなくてはならないと感じています。また、この気運を行政とのパートナーシップに結実していく知恵が、市民、行政に求められていると思います。

そのためにも、私たちの会が中心になって、町並みや景観形成をまちの活性化に結び付ける具体的なプランや実践を示していかなければと痛感しています。

そのためのひとつのステップとして、NPO法人の取得を選択し、現在申請中です。法人取得により、行政にきちんと事業提案をしてプランづくりなどを受託したり、地区まちづくりの支援メニューを示して地区が主体的にまちづくりに取り組むお手伝いをしていきたいと思っています。

会としての課題は、一言でいうと継続するしんどさ、ということでしょうか。

地区まちづくりでは、どのように関心のない人（これがほとんど）の関心を引き出すかだと痛感しています。



本町まちづくりシンポジウム
「伝統を活かした住まい&店づくり」



夏祭りと笠原邸
活動成果として改修された加原邸が、
イベントの広場になった